

たんばりんぐ



丹波市議会第1回定例会（丹波市役所議事堂本会議室）

市議会の新体制決まる……	2
全議員の抱負……	4
12月定例会(条例改正・予算審議・特別委員会報告)……	6
一般質問 21人が登壇、市政をたず……	9
市民の投稿(傍聴記)／編集後記……	20

市民の期待一心に市議会スタート

●議長
山本 忠利

●副議長
足立 一光

議会の構成

★常任委員会

委員会名	委員名	主管部局
総務常任委員会	委員長 岸田 昇(市ク)、副委員長 近藤良雄(清政) 小寺昌樹(無)、田坂幸恵(公明)、太田喜一郎(市ク)、 前川豊市(市研)、西本嘉宏(共産)、田口勝彦(清政)、 足立一光(清政)、山本忠利(市ク)	総務部、企画部、財務部、教育部、議会事務局、 会計課、選挙管理委員会、監査委員会、公平 委員会、固定資産評価審査委員会の所管に 関する事務、所管に係る支所の事務、他の 常任委員会の所管に属さない事務
民生常任委員会	委員長 広瀬憲一(共産)、副委員長 竹知正明(清政) 瀬川 至(清政)、高橋信二(市ク)、平井孝彦(清政)、 足立鉄男(清政)、藤本正巳(市研)、木戸せつみ(市ク)、 山下栄治(清政)、吉見公之(市ク)	生活部、環境部、保健福祉部、消防 本部の所管に関する事務、所管に係 る支所の事務
産業建設常任委員会	委員長 小山欣弥(公明)、副委員長 足立 修(市ク) 大野亮祐(清政)、難波岩夫(無)、堀 幸一(市ク)、 荻野拓司(市ク)、大木滝夫(市ク)、奥村正行(清政)、 田村庄一(清政)、足立正典(清政)	産業経済部、建設部、水道部、農業 委員会の所管に関する事務、所管に 係る支所の事務

※() 内は会派を表しております。正式名称は、清政→清政会、市ク→市民クラブ、市研→市政研究会、
公明→公明党、共産→日本共産党議員団、無→会派に属していない

★議会運営委員会

委員会名	委員名	所管事項
議会運営委員会	委員長 足立正典、副委員長 前川豊市 瀬川 至、小山欣弥、広瀬憲一、大木滝夫、 田村庄一、足立 修、岸田 昇	議会運営に関する事項、議会の会議規則、 委員会に関する条例等に関する事項、議 長の諮問に関する事項

★特別委員会

委員会名	委員名	所管事項
議会広報発行特別委員会	委員長 木戸せつみ、副委員長 小寺昌樹 大野亮祐、太田喜一郎、高橋信二、荻野拓司	議会広報の発行に関する事務
災害調査特別委員会	委員長 小山欣弥、副委員長 足立 修 竹知正明、小寺昌樹、広瀬憲一、荻野拓司、 奥村正行、田口勝彦、吉見公之、岸田 昇	台風関連の災害調査
氷上多可衛生事務組合組織運営調査特別委員会	委員長 広瀬憲一、副委員長 吉見公之 田坂幸恵、堀 幸一、前川豊市、藤本正巳、 西本嘉宏、田口勝彦、足立一光、足立 修	氷上多可衛生事務組合職員を丹波市職員 として身分移管することについての調査

★一部事務組合

一部事務組合など	議員名
氷上多可衛生事務組合議会議員	瀬川 至、田坂幸恵、藤本正巳、西本嘉宏、 荻野拓司、大木滝夫、山下栄治、足立一光



創刊号を 祝して

市長
辻 重五郎

春爛漫の候、市民の皆様には、ご健勝にて
お過ごしのことと存じます。
さて、議会だより『たんばりんぐ』が創刊
されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。
昨年、11月1日に4年の歳月と関係各位の
ご努力により氷上郡6町が一体となり「丹波
市」が誕生いたしました。
「人と自然の交流文化都市」を将来像に掲
げ、「すばらしい丹波市をつくろう」を合言
葉に、新市のより良き基盤作りに、市議会
のご指導ご鞭撻を賜りながら全力を注ぐ覚悟で
ございます。
そして、議会、行政、市民の太いパイプ役
として、市民に愛される議会だより『たんば
りんぐ』となりますよう祈念いたしまして、
ごあいさついたします。



議会と市民を つなぐ役目を

市議会議長
山本 忠利

市民の負託を一心に受け丹波市議会がスタ
ートしました。議員の一言一句は、とりもな
おさず住民の意見であり、住民からの声であ
るというべきであり、「議会だより」は議会と
住民をつなぐための大切なものであります。
市民に開かれた市議会をめざして、各常任
委員会も公開とし、情報発信をしています。
議会広報誌の発行も分かりやすく親しみのも
てるよう務めて参りますので、ご意見、ご要
望、お気づきの点は何なりと申し添えていただ
ければ幸いです。
本市の発展と市民福祉の向上に議員が一丸
となって、誠心誠意努力をいたす覚悟です。
で、市民のみならず一層のご支援とご鞭撻
をお願い申し上げます。議会だより発行にあ
たってのごあいさついたします。



第1期丹波市議会議員



竹知正明

魅力ある地域社会
地域に根づく産業に活
力が満ち、皆が健康で、
心安らぐまちの実現をめ
ざし、住民の目線に立つ
誠実な議員活動。



瀬川 至

財政の健全化を第一に
考えながら、地域に根ざ
した伝統文化を大切にし
「住んでよかった」と言
える住みよい地域づくり
をめざしていきます。



大野亮祐

丹波市の前途は険しく
厳しい遠路です。
市民一人ひとりが「住
んでよかった」と実感で
きるまちづくりに努力し
ます。



西本嘉宏

情報の公開と議会のチ
ェック機能を高め、市民
の声がまっすぐ市政に届
く、「市民が主人公」の地
域づくりをめざします。



広瀬憲一

①「市民が主人公」の安全
安心の市政づくり。
②くらし、福祉の後退を
ゆるさず優れたものは
新市へ引き継ぎ充実させ
ます。



荻野拓司

「なせばなる なさねば
ならぬ 何事も。なさぬ
は人のなさぬなりけり」
という言葉があります。
この姿勢で物事に向き合
います。



難波岩夫

①全市民が平等なサービ
スを享受できる町づくり
②社会資本の充実を図り
全市均衡ある発展の実現
③安全で安心な町づくりに
めざします



小寺昌樹

財政基盤の確立に、地
場産業の育成と商工業の
活性化、農林業の振興を
はかり、活力のある「住
みよい丹波市づくり」に
貢献します。

新市誕生後はじ
めての市議会議員
選挙は、12月5日
に市長選挙とも
に執行され、30人
の新市議会議員が
誕生しました。

広報発行特別委
員会では、全議員
に抱負をのべてい
ただきました。



木戸せつみ

愛と希望あふれる丹波
市を市民と共に創ってい
きます。また、丹波市の
全域が交流文化都市とし
ておだやかに発展してい
くよう全力をそそぎます。



大木滝夫

「こころ豊かな未来」実
現のため、各々の課題に
積極的にとりくみ、住民
の声を市政に反映できる
よう精一杯の努力を重ね
ます。



小山欣弥

皆さんとともに!!を、
活動の原点に、社会保
障整備の充実、少子高齢
化対策など、新市の抱える
課題に全力で取り組んで
まいります。



田坂幸恵

新生「丹波市」の発足に
伴い、女性の視点から「社
会保障整備の充実」「少
子高齢化対策」をはじめ
新市の抱える課題に全力
で取り組んでまいります。



太田喜一郎

安全で安心して暮らせ
るまちづくりをめざして
小さなことからひとつづ
つをモットーに丹波市発
展のために全力を尽くし
ます。



堀 幸一

わたしの約束
安心して暮らせ、人と
自然、人とひとが調和し
活気あふれる丹波市づく
りをめざして、全力を尽
くします。



田村庄一

地域の個性や思いを反
映し、活力とやすらぎの
丹波市をめざします。
産業の活性化や若者の
定着、健康と福祉の向上
に取り組めます。



田口勝彦

丹波市の創造に向けて
市民の皆様積極的に参
画願ひ、旧町の特徴を活
かした一体感のある町づ
くりを進めて行くため努
力する覚悟です。



高橋信二

いつも市民の目線で物
事を見つめ、丹波市にな
って本当によかったと言
えるようにがんばります。
周辺部も活性化してこ
そ市の未来があります。



平井孝彦

「公」とは住民から見ら
れる、聞かれる、批判さ
れる三猿によって評価さ
れる。私は公平で公正な
公僕として、一事に命を
懸けて取り組みます。



足立鉄男

分権時代にふさわしい
新しいまちづくりのため
行政、住民、議会がとも
に連携し、厳しい財政危
機を乗り越える行財政の
改革に努めます。



足立一光

新生丹波市として、災
害の復旧と市民に開かれ
た議会をめざし旧町の議
会運営にとらわれず、副
議長として議長を補佐し
市民のための議会をめざ
します。



足立正典

市民に開かれた市政、
災害に強くなるおいと優
しさにあふれたまち、地
域産業を育むまちを皆様
と一緒に考えていきます。



吉見公之

全市民の安全・安心の
生活を守るため、周辺地
域に厚く配慮することに
より、地域間格差のない、
大きな丹波市、豊かな市
になるよう努めます。



近藤良雄

心はずむ、夢のある丹
波市を創るために、市民
の皆さんに住んでよかつ
たと言っていただけであ
らう誠心誠意、努力して
がんばりたいと思います。



前川豊市

旧六町には、それぞれ
まちづくりの課題があつ
たはず。この課題を一つ
づつ実現させ、六つの核
を中心に、新しい丹波市
づくりをめざします。



藤本正巳

「市民の命」を守るの
が行政・議員の責務と信
じます。救急医療体制を
確立することが第一の仕
事、旧町事業の平準化を
求めたい。



足立 修

地域の活力再生を図り、
丹波市が日本の原風景を
想わせる、「美しいふるさ
と都市」として、発信の
できる基盤の確立に全力
を注ぎたい。



岸田 昇

市民の参加による自主
自律した政策が立案され
自らが効率的な行財政運
営が図られた「住民自治・
団体自治」の確立された
丹波市をめざします。



山本忠利

「小異を捨て大同につ
く」精神で勇気と英断を
もって、行財政改革をお
こない、農業、地域経済
の再生、少子高齢化対策
を実施する。

厳しい財政でスタート

災害復旧に19億計上

新市が発足して初めての定例議会は12月16日に招集され、2月3日までの50日間の会期で開催されました。会期中は、助役、収入役、教育委員会委員などの人事案件の同意、237件の条例制定の専決処分承認、災害調査特別委員会など3特別委員会の設置を決めたほか、11月から3月末までの平成16年度丹波市一般会計予算および特別会計予算について審議し、全議案について原案通り可決しました。

旧町引継ぎ予算を審議

一般会計・特別会計

本年度の予算案は合併時の11月1日から本年度末の3月31日までの5ヶ月間の予算です。

一般会計は、232億6千万円、国民健康保険特別会計など14ある特別会計は149億878万5千円。これらはすべて旧町からの未執行予算を引き継いだもので、新市になって新たに盛り込まれた事業は災害復旧を除くとほとんどありません。また、年度末の一般会計の地方債残高(借金)の

予算特別委員会の質疑

問：コミュニティバスができるまでに、現在の路線バスをなくしてしまうのか。

答：今すぐに何もかもなくせるものではない。調整をはかりながら、コミュニティバスについては論議を深める。

問：支所にも運営費が必要だ。検討されたい。

答：合併協で議論されてきた。支所では独自に事業執行はできない。

問：小児救急対応と周知は。答：日赤病院と柏原病院で24時間受入れしている



△現在の路線バス

ことを広報する。

問：特産品への助成は。

答：市内には多くの特産品がある。補償制度でいいのか検討する。

問：春日・道の駅について。3セクの考え方は。

答：簡易パーキングは県地域振興施設・七日市遺跡は市が実施。旧町からの引継事業であるが、時間をかけ検討していきたい。

問：防災無線の活用は。災害時に通行止め箇所、水位等は知らせるべき。

答：災害と広域広報に活用。問：文化・芸術団体への補助を削減するのか。

災害早期復旧に全力を

災害調査特別委員会を設置

市議会では、昨年10月までに襲来した台風16、18、23号の被害調査と早期復旧をはかるために「災害調査特別委員会」を設置。委員は、10人の議員を選出しました。

委員会は、1月18日と1月31日に開催し、各関係部局から災害の状況と復旧の見通しの説明を受け、現地調査を行いました。



△市島町徳尾の道路決壊

- 台風23号などによる主な復旧費の概要は次のとおりです。
- ◎公共土木施設災害復旧費 428カ所
 - ◎農地・農業用施設 9億1635万円
 - ◎農地 247カ所
 - ◎治山 1億7020万円
 - ◎林道 8カ所 4400万円
 - ◎揚水機配電盤など 20カ所 8660万円
 - ◎公共下水道 20カ所 1600万円
 - ◎公共下水道 9カ所
 - ◎農業集落排水 6億4081万円
 - ◎農業集落排水 9カ所 2080万円
 - ◎コミュニティプラント 2カ所 355万円
- 復旧の見通しは、河川と道路は17年度末で7割の復旧を予定。農地復旧の目途は稲作が始まる時期までの予定です。

人事案件

人事は、堅実・調和・創造を基本として選任されており、以下の同意案件を可決しました。(敬称略)

助役 足立 元

収入役 藤井 敏弘

公営企業管理者 足立 一幸

公平委員会委員 吉住 康之

教育委員会委員 高見 四郎

安井 隆昌

和田 利一

山本 苗

木村 壽彦

渡邊 秀樹

深田 勉良

垣内 宏之

竹内 正道

田中 洋子

十倉 孝實

山本公一郎

- 固定資産評価審査委員6名
- 田邊 茂和
 - 田邊 欽治
 - 足立 紀雄
 - 本庄 一郎
 - 大垣文次郎
 - 永井 修
- 議会の推薦の行政委員会委員
- 男女共同参画の観点から農業委員会委員に1名、選挙管理委員会補充員に3名の女性を推薦しました。
- 農業委員会委員
- 青垣町奥塩久・足立 邦雄
 - 春日町棚原・秋山 正光
 - 市島町与戸・洲上 忠男
 - 山南町坂尻・足立 節子
- 選挙管理委員会委員
- 春日町中山・小橋 隆明
 - 水上町石生・小川 敏夫
 - 青垣町沢野・田村 昌俊
 - 市島町下竹田・大槻 修一
- 選挙管理委員会補充員
- 山南町小野尻・白髭 満
 - 柏原町柏原・春名しずゑ
 - 青垣町大名草・山下 勝子
 - 水上町新郷・大前 清美

市条例専決処分承認

条例は丹波市の根幹をなすものであり、全議員による丹波市条例審査特別委員会を設置し審査しました。

反対——西本嘉宏

幼稚園保育料、預かり保育料、駐車場料金など住民負担増加のものがある。また、長寿祝金は、支給年齢引き上げなど弱いものいじめの典型である。ポスト同和の事後対策的な条例も残されており、承認できない。

賛成——田口勝彦

合併協議会で協議し、旧6町の議会での承認項目であり、事務の一元化も調整されており承認すべきである。調整を必要とする条例もあるが、今後議会でも改訂なり、提案をして、本件はもうろん9号から12号も当然承認すべきものである。

(条例審査特別委員会が出た主な意見)

- ・学校施設使用料は原則無料が望ましい。
- ・隣保館は一般公民館の取扱いとするべき。
- ・施設関係の運営は精査し、外部委託の方向へ。
- ・それぞれの施設条例は使用料、時間等を統一するように。

丹波市初の第1回定例会で21名の議員が一般質問を行い、災害対策、福祉巡回バス、農業問題、条例制定、行財政改革、救急医療体制、通学の安全対策、人権行政、行政サービス、少子化対策、幼稚園・学校給食問題、市長の公約、環境問題、職員の意識向上、防災無線、高齢化対策、まちづくり、教育問題、職員体制、地域産業の振興、学童保育、町ぐるみ健診、旧町からの引継ぎ事業、山林の整備、障害者支援、支所体制の強化などについて市長の考えをたどりました。



市政をたどす

一般質問

△答弁する市長

問 昨年10月の台風23号により甚大な被害にあった水上町東地区西部（稲継・本郷・横田地区）の治水対策について、被害を大きくした要因と行政の対応、当面の改善すべき点、今後の抜本的対策、危機管理条例の制定をどう考えるか。

答 未曾有の増水のもと、防災計画、施設、組織などの根本的施策が必要と痛感しました。県事業で排水設備の嵩上げが17年度に実施されます。加古川下流からの河川断面の掘削、橋梁、井堰などの改修促進を強く求めています。危機管理条例は防災計画の早期作成により対応します。

問 排水ポンプの能力倍増と嵩上げ、救急ボートの常設、防災無線の確かな発信、漏水護岸対策、

問 排水ポンプの能力倍増と嵩上げ、救急ボートの常設、防災無線の確かな発信、漏水護岸対策、

答 排水ポンプの能力倍増と嵩上げ、救急ボートの常設、防災無線の確かな発信、漏水護岸対策、



▷本郷の排水機場



水上町東地区西部の治水対策を

県に要望し防災計画を確立します

足立鉄男議員

問 行財政改革はサービスの低下をさせずに、職員の減少を図る企業感覚の取り組みと住民提案制度の考えはあるのか。旧町持越しの事業のすり合わせ調整はできているのか。

答 職員数は類似団体の約2倍を抱えており、財政的に大きな課題です。旧町の持ち越し事業は、予算編成で調整して取り組んでいます。

新市の財政問題は

問 財政問題について、スケールメリットとその施策、行財政改革の取り組み、特例債活用への考え、財政基盤確立のためのマスタープランはできるのか。

答 財政基盤の強化には、行財政改革を最重要課題とし、中長期財政計画をもとに事業展開します。

所管委員会で質疑

▽柏原駅前の一時駐車場



問 国保税滞納の現状と回収方法はどうか。

答 2億1374万1千円の滞納があり、税の公平性を欠くことのないよう滞納整理に取り組む。

問 福祉送迎車について、困っ

ている人には対応すべきだ。

答 本当に必要な人には利用できるよう支援の手をさし、のべることが重要と考えている。

問 介護用おむつの給付は所得制限があるのか。

答 所得制限はない。

問 ごみ袋の底が抜けるものや、弱いものが多い。

答 底部圧着不良の製品があり、市庁舎、支所に持参いただければ取替える。ま

特別会計予算審議

民生常任委員会

●駐車場特別会計

問 駐車料金の滞納はあるのか。

答 旧町から引き継いだのは、9件で57万円ほどある。旧町の条例により、滞納者は契約を解除している。

問 この特別会計は柏原町だけか。

答 柏原町の会計を引き継いでいる。4月1日からは丹波市駐車場条例に

基づき他町の駐車場も含めて施行していく。

問 新市の駐車場条例は1円でも500円となっているが丹波市内の駅前駐車場の無料化（30分とか1時間以内）は検討の余地はないのか。

答 調整しなければならぬ点もあり、実態調査をして検討したい。

問 基金が7千万円ほど積み立ててあったと思うが、どうなっているか。

答 基金については特別会計で引き継いでいる。

問 駐車場の管理とその責任は。

答 柏原町の場合、担当課が維持管理してきた。17年度から市の中でどう考えていくかが今後の課題。基本的には無人化を図ることがめざされている。

請願

「市民安全部（仮称）の新設」は総務常任委員会で審議継続中。

特別会計予算審議

総務常任委員会

特別会計予算審議

産業建設常任委員会

●簡易水道特別会計

問 滞納者はどれくらいか。収納状況はどうか。

答 滞納額は、1189万円。収納については努力します。

●水道事業会計

問 旧町の水をどのようにまわすか。潤沢なところからまわすのがよいと思うが。

答 施設を増やすことなく、市全体の計画を作りたい。

●農業共済特別会計

問 丹波市の特産である小豆の共済制度が必要と思うが。



△和田の浄水場

答 難しい問題もあるので、財政的なことも考慮して検討していきたい。

●農林災害

問 仮復旧の場合負担はどうか。

答 全額負担は難しい。地元と相談しながら行いたい。

た、発注業者を替え製品の完全を期している。

◆ 柏原保育所建設工事請負変更契約

649万2150円の増を調査していくなかで変更計画以前に工事着工していること、駐車場借地の一部に根抵当権が設定されてい

請願

「自動車解体工場の建設許可をしない旨の請願」が出されており、民生常任委員会で審議継続中。

「南桃源」職員を市に

市議会で特別委員会を設置して調査

丹波市と多可郡四町が共同設置している、し尿処理施設「南桃源」で勤務する27人の職員の市への移管の問題を調査するため「水上多可衛生事務組合組織運営調査特別委員会」を設置し、調査をしました。

調査結果は、旧六町長が「市職員とするよう務める」とした確認書、念書を尊重する市長の意向を理解するものです。

多くの賛否の意見が出た中で①職員20人が従事する特別会計事業が丹波市独自の事業であること②市の負担はこれまで委託金を支払っており、身分移管しても変わらない③高い水準にある組合職員の給与、手当を市職員水準まで下げるなどの事項を踏まえた結論です。

また、将来的に民間委託などの方向を探り、組織改革をはかり、適正な運営を求めていくものです。



救急体制の整備は

できるだけ早く整備を
図りたい

近藤良雄議員

問 市民から要望の強い救急体制にかかわる山南、青垣、市島、春日の4分駐所の早期設置について市長の考えは。

答▶郡広域行政事務組合議会、消防組織調査特別委員会答申に基づいて10分以内に搬送体制ができる分駐所の設置や32名の増員が必要ですが、取りあえず17年度から4名を消防学校に入校させます。そして、18年度から、現場活動をさせ、春日方面に昼間の分駐所を設置したいと考えます。現在、山南（火・金）、青垣（水・日）、市島（月・木・土）は昼間のみ3名体制で駐在しています。人員問題については、内部からの人事異動も含めて考え、できるだけ早く24時間救急体制の整備を図り、市民要望に応えたいと考えます。

コミュニティバス

問 合併協議会の新市建設計画、施策の中で議題になったが、コミュニティバス（福祉巡回バス）の実施を望む声強いがどう考えておられるのか。

答▶コミュニティバスについては旧町ですでに実施しているところもあり、地域の人に力を借りて継続したいと考えます。市内全域については余りにも面積が広いので財政的また効率的なことも考え、安心して住めるまちづくりのため、前向きに調査研究をしていきます。

農業振興協議会の組織は

問 丹波市農業振興協議会の組織は、現在どうなっているのか。また、市長は丹波市の代表的な特

産物は何を考えているのか。

答▶農業振興協議会はJ Aと行政で10数年間資金を出し合って継続してきましたが、平成15年度で解散しました。17年度以降は農業農村振興協議会を設置します。J Aや農業関係者などともよく協議します。安全で安心のできる作物を供給するために、水稻を主体に花卉、野菜、畜産などにも力を注ぎ、丹波ブランドの農作物の振興を図ります。台風被害の大きかった大納言小豆については、市内全体の小豆のみの補償はできません。ただ春日町では特産品補償要綱に基づき対応します。小豆の共済制度については今後調査研究して国にも働きかけていきます。



参画と協働の基本条例化は

今後の研究課題とします

平井孝彦議員

からの研究課題とします。

市民の目線での行政改革は

問 合併によるスケールメリットを活かす次の4項目について①財源の確保 ②職員の意識改革 ③情報公開と共有 ④市民ニーズの把握について、これまでの改革では時代に取り残される。

市民の目線でダイナミックでスピーディーな改革ができないのか。

行政改革大綱策定委員会を設置して対応します

答▶行政改革は丹波市にとって最重要課題と考えています。



△地域で子育てを

救急体制の充実計画は

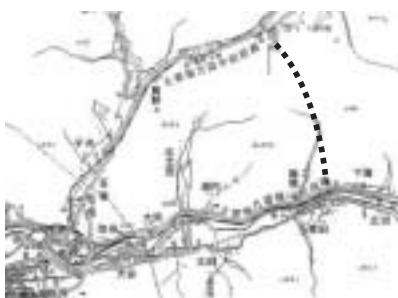
できるだけ早い実現を

藤本正巳議員

問 旧町の垣根を越え施策議論ができることが合併の一番のメリットと考えている。「市民の命」を守ることから全ての施策が始まる。現状の分駐体制では地域格差が大きすぎる。一日も早く格差を埋めることが求められているし、政の責務である。10分以内の24時間常駐体制の計画線表を提示し市民に安心を与える必要がある。本署の位置、道路網の整備（無医地区の上下下・柏原間）も含め医療機関との連携や将来のまちづくりを予測する中、グランドデザインを作成し、市長任期4年以内の実現を求める。

答▶署員として採用しても職場活動ができるのは1年間消防学校で研修を受けてからとなります。また、救急救命士の養成は5年の実務経験を積み

6ヶ月間研修し、国家試験に合格してからとなり時間がかかります。消防署員の登用については市長部局の人事異動も含めて丹波市総合計画の中で24時間10分以内を目標に進めていきます。昨年10月の台風23号により消防本部が水没したような状況においては、一極集中では問題があり市内全体の救急配備体制も併せ検討します。これからの負傷者、病人受入の円滑化を図るためには、救急車内の心電図などの電送装置をもって医療機関と連携しながら最新鋭の機器を導入していく計画も必要になってきます。4地区の駐在を実現することと平行して達成に向け進めていきます。「人の命」の問題でこれほど大事な事業はないとの認識で早く実現するよう約束します。



24時間体制と併せて道路アクセスも考え取り組んでいきたいと考えます。

（消防長）救急業務を預かるものとして、今すぐ実現したい気持ちです。

人・施設・装備の確保は、財源確保が必要です。本年4名の採用により18年度からは、春日方面の昼間の救急駐在隊を青垣・山南・市島の体制を堅持しながら派遣していただきます。防災拠点は分散しておく必要があります。

問 旧郡広域行政で計画していた、救急車10分以内到着と24時間救急体制の整備のために救急分駐所4箇所（春日・市島・山南・青垣）同時設置はどうするのか。

また、新市建設計画の「コミュニティバス・福祉バスの整備」はどのように検討されるか。

また、旧山南町で実施されている福祉送迎車の制度を当面全市に広げべきと思うがどうか。

答▶救急分駐所と24時間体制の整備は、命にかかわる重要な緊急課題であり全力で取り組みます。時期は明言できないが、当面、春日地域に昼間の駐在所を設置していきます。

福祉バスは、高齢者、障害者のサービス向上のために重要課題と認識しています。これを踏まえ、

今後、旧山南町などの福祉送迎車など全市で取り組む具体的な計画をしていきます。

三位一体改革と中長期財政計画の中身は

問 国は「三位一体改革」と称して、地方交付税など地方財源のカットに乗り出したが、市はどう考えているのか。また、「中長期行財政計画」の中身の考えはどうか。

答▶政府の「三位一体改革」は、建前はいいが、中身は過疎の自治体にとっては問題が多く、国に意見を言うべきは言いまです。今後「財政計画」の見直しも含め「中長期の行財政計画」をつくり、10年間の地方交付税算定特例期間に改革をすすめます。

問 同和特別法が失効した。この間、もっとも深刻にして重大な社会問題を克服し大きな一歩を築いた。この立場から、今後の市の基本的な考え、さらに同和教育は終結し、いわゆる「人権教育」は今日の課題を明らかにして取り組むべきと考えるがどうか。

答▶法は失効しましたが、今後一般事業として対応します。市として女性、外国人、障害者などすべての人権課題に取り組むため、人権行政・啓発の基本方針を策定していきます。



今必要な行政サービスは

市民の期待に応える
行政を

竹知正明議員

問 職員の応接態度は合併の良し悪しの第一判断となり、今が大切な時である。

- ①その対応は十分か。
- ②申請書類の簡素化や事務処理などの迅速化は。
- ③福祉サービスや住民活動に対する支援や補助で不安が先行しているが。
- ④市民がどのようなサービスを求め、それに行政がどのように対応していくのかという顧客志向の行政をしていかなければならないが、そのために職員が智慧や力で工夫し住民の立場に立った質や効率性の向上、成果の重視や説明責任の向上のために行政評価を導入してはどうか。

説明責任を果たせる 職員の育成

答 市民には、市になって大きな期待があります。窓口対応は旧町時代以上に的確でスピーディに努めなければなりません。福祉サービスは不安を取り除くことも大切で、慎重に考えていきます。施策の充実で、市になったと感じていただくよう職員全体で取り組みます。IT情報はこれだけの費用でこれだけの事業ができたという検証をしてみたい。仕事はいかに効率よく適切にできるかが課題で、行政評価を今度は考えていかなければなりません。

少子化時代の対応は

問 今後、子供や高齢者、障害者などを支えるためにも若者定着が必要である。雇用の拡大や子育て支援を充実する考えは。

答 若者定着は職場の確保が重要で、雇用の拡大を具体的に提案し施策として活かしていくことが時間ばかりありますが大切なことです。



▷「窓口満足度」の調査に協力する市民



全幼稚園に給食の実施を

調理能力があり検討したい

木戸せつみ議員

問 近年、食生活をとる環境が大きく変化し、食に関するさまざまな健康問題がおきている。健全な食習慣の形成が国民的課題となり、国会でも「食育基本法」の成立が審議されている。

幼稚園や学校での食育の活きた教材は給食である。給食は多様な食品を活用した栄養のバランスのとれた食事で、子どもの体位・体力の向上はもとより、食について体験し学ぶことができる。さらに、子どもを通じて保護者を啓発し、家庭教育の活性化にもつながる。

また、仕事を持つ親が多い昨今、少子化対策の一貫としても必要である。このような観点から給食を全市で取り組むため、未だ実施されていない幼稚園での給食実施について

の考えは。

答 給食実施計画がない幼稚園は、山南町と市島町ですが、園児分の調理能力はあります。実施には条件整備が必要のため、17年度に学校給食運営協議会を立ち上げ検討したいと考えます。

地産・地消を拡大する

答 現在、米は100%、野菜は約30%地域産を取り入れています。今後、旬の農産物の利用を拡大していきます。

給食に丹波産 農産物を

問 子どもの健全育成と農業施策として、市内の減農薬栽培農家などと連携し安全・安心な丹波産農産物を学校、園の給食食料として使用することについて



▷おいしいなあ！



市周辺地域崩壊の対策は

地域の持つ力、やる気を引き出します

足立 修議員

問 丹波市の発足にともない、周辺地域となった集落では、少子高齢化がさらに加速され、集落崩壊すら予測される。これらの地域に暮らす住民の不安に、ひとつひとつ応えることが心の合併であり、合併してよかったと評価されることである。農業や農村、ふるさとの山や田んぼこそが日本の文化の原点であり、市の将来像も、これをいかに対策するかであると私は確信しているがどうか。

答 住民の意見を聞く場をつくり、現場で議論をいただく中から、それぞれに地域の持つ力、やる気を引き出し、辺地の課題に対応していただきたいと考えます。

問 市の行財政の早期安定、確立のための具体的

問 環境の大きな変化が地球規模ですすんでいる。気象や生物の生態もその現象がみられる。丹波市が、「人と自然の交流文



△惨状。山林崩壊

問 合併については、市の周辺地の住民からは、「取り残される」、「市が遠くなる」といった疎外感の気持ち強い中で、それぞれの住民が合併のメリットを享受できる市政を進めていくことが大変重要だと思う。

その具体的な事項として、こうした住民からも、また、複数の旧町からの新市への引継ぎ課題であり、合併計画の中にも盛り込まれている「24時間緊急医療体制の整備」、「コミュニティー福祉バス」の実現がまずは急がれる。そして、これが実現すると、市長の言われる、市への一体感も醸成され、多くの市民が合併のメリットを享受できると思う。この「緊急医療体制の整備」、「コミュニティー福祉バス」の取り組みに

新市の周辺対策を

「鴨庄福祉バス」助成は検討する

荻野拓司議員

についての考えは。また、すでに鴨庄の住民が立ち上げている「福祉バス」の支援についての考えはないのかお聞きしたい。

答 「24時間救急体制の整備」はすぐに実施することは困難ですが、市としての最重要課題として認識しています。鴨庄の福祉バスへの補助は17年度予算で検討します。



△「お気をつけて」「ありがとうございました」…笑顔の「鴨庄ふれあいバス」



救急体制の地域間格差是正

最も要望の多い、喫緊の課題として取り組む

高橋信二議員

うか。

問 住民意識調査で「一番実施してほしいこと」としてあげられた救急医療体制の地域間格差の是正に早急に取り組むようにすべきではないか。

答 議員、市民の多くの方々からも一番大事なことで聞いているので喫緊の課題として取り組むこととしたいが、今すぐという訳にはいかないこともご理解願いたい。早急に計画を立てるようにしています。



問 旧市島町では「葛野村生まれの福祉活動家大野唯四郎氏」の（愛育）を福祉活動のよりどころとしてボランティア活動などに取り組まれてきた。丹波市においても福祉活動のみならず、市のコンセプトとしてこれを継承していくことにしてはどうか。

問 市長は早急に財政計画を立て、足腰の強い財政基盤の確立を図っているがこれはいつできあがるのか。また「新市建設計画」との関連はどうか。

答 最重要課題のひとつであり、早急に策定していかねければと考えます。「新市建設計画」は将来にわたり健全性、収支均衡を目的としているため、市の将来を見通した計画を改めて立てる必要があります。

問 合併により市の職員は何名となっているか。また、合併による要員効果はどれくらいあったか。

答 一般職員822名、非常勤職員など、合計1302名となっています。要員効果は旧町の仕事の持込などによりみることではできません。

問 昨年の台風災害で、まだ復旧されていない所も数多くあります。いつ頃を目途に復旧できるのか。激甚災害地指定を受けている現況で、住民の負担はどのくらいになるのか。また、加古川は、今後、どのように改修されるのか。

答 道路・河川は6月の梅雨期までに緊急を要する場所から工事に取りかかります。農業関係では大きな工事は除き、水稻の植付け時期まで、また、造林事業に関しては、17・18年で対応します。激甚災害地に指定された農地で平均90%・農業施設で平均95%の補助を想定しています。

市では、丹波市農林水産用施設災害復旧事業分担金徴収条例に基づき支援をします。鹿・猪防護



台風被災箇所の早期復旧を

緊急を要するところから本格的な復旧に着手

山下栄治議員

柵については資材が5万円以上要する場合80%の補助をします。

また、加古川の改修が基本であると認識しており、さらに、県や国に強力に要請していきます。

問 防災行政無線による災害発生時のきめ細やかな情報伝達が、住民の不安を解消する要因になると思われるが、その体制が構築できるのか。

答 特に火災発生場所については、音声合成装置で放送を流しており、現在、町名と大字名しか放送できません。しかし、自主防災組織の活動の迅速化や近隣の初期消火活動のため、火災場所を詳細に知らせることは必要は確かにあります。現在、各関連部課と詳細放送をどのようにしたら可

能なのか検討しており、早期に結果を出し、対応していきます。

問 交通弱者といわれる高齢者や学童や障害者の移動手段として、地域住民の生活交通の確保や、公共施設などへの利便性向上のため、巡回バスやコミュニティバスの運行を考えてはどうか。

答 各地区で行われている送迎事業やタクシー券など、いろいろな資料を集め、効果的な抜本策を見出していきたいと考えています。



農業・農村の活性化を

グリーンツーリズムで都市との交流を推進

田村庄一議員

負担軽減の考えはあるのか。

また、災害防止のため河川や道路、山地の危険箇所の徹底した調査点検と改修が必要ではないか。

答 農地や林道、防護柵などの被害は3億3千万円を超える小災害の復旧には市単独補助を考えています。

また、危険箇所の実態調査や指定、工事の優先措置を講じつつ、地域防災計画や災害予想地図を作成し、情報伝達や避難誘導を図ります。

長寿社会への対応

問 少子高齢化により45年後には人口5万を切り、高齢者が3分の1を超える。高齢者の健康増進や生きがいづくりへの支援が必要。



問 住民の意識改革のうえからも、住民の義務や責任、権利などが位置づけられ誇りを持って行政に参画し協働することを定めた自治基本条例を制定してはどうか。



△温水プールでいきいきと！

答 その必要性は感じています。今後の新市建設計画を見つめなおしていく中で検討します。

問 高齢者の健康づくりの一環として、パワーリハビリや温水プールの活用策を考えてはどうか。

答 緑豊かな自然環境は丹波市の財産であり、高齢者が生活する上でも良い環境であり、これを生かした住みよいまちづくりをしていきたいと考えます。



子どもの学力を高めるには

子どもの実態を把握し、
学力向上をめざす

堀 幸一議員

問 丹波の子どもたちにとのようにして学力をつけていくのか。

答 社会の変化に対応していく教育をしなければなりません。学力調査は、平成17年度に県教育委員会がすべての小学校で実施します。その結果を見て学力問題に対処していきます。さらに、教員の研修、朝の読書、家庭学習の奨励、授業日数の増加、不登校ゼロ作戦の継続等を推進していきます。

問 市の中心部と周辺の格差のない行政サービスについてどう考えるか。

答 市民意識として市役所が遠くなったなどの声を聞きますが、まちづくりの議論を展開し、意見を聞かせていただきたい。また、支所機能の充実が必要であると考えています。

問 市の各部、課における職員体制および支所機能の充実についてどう考えるか。

市民参加条例の制定を

今後の検討課題とする

足立正典議員



問 市民参加条例制定に向け、行政情報の公開、附属機関の会議の公開、パブリックコメントの実施をしてはどうか。

答 情報の公開、会議の公開。パブリックコメントの実施は、市民に情報の習得をしていただく上で大切な認識をしています。しかしながら今すぐに条例を制定はできませんが、今後の検討課題とします。

災害に強いまちづくり

問 災害に強いまちづくりを進めるために危機管理体制を確立し、高齢者、障害者、子供など災害弱者を守るシステムの構築が急務ではないか。

答 天災、人災を問わずあらゆる災害が発生している昨今です。市では一貫した地域防災計画や危機管理マニュアル制定には着手していませんが、早期に整備をし、総合防災訓練の実施をし、災害

能の充実についてどう考えているか。

答 現在4支所を設置し、それぞれに支所長1名、地域振興課を置き20、23名の職員を配置し窓口業務を中心に機能させています。今後、平成17年4月1日には一部の機構改革、人事配置を実施します。市としての実質的な機能開始は平成17年7月1日になります。それまでは暫定配置という位置づけです。

問 消防本部における分注所の充実と救急車などの配備計画についてどう考えるか。

答 救急車の配備については4救急駐在所に4台、本署に2台、予備に1台、合計7台が必要であると考えています。

問 崇広小学校、柏原中学校の改築計画についてどう考えるか。

答 耐力度調査、耐震診

断が急がれます。いずれにしても早急に改築が必要でなかつたかと考えています。

問 丹波市内小中学校の防災・安全対策の実態についてはどうか。

答 テレビ、棚の固定、ガラスの飛散防止策は早急に対応したいと考えています。

問 登下校時の安全確保についてはどうか。

答 通学路における危険箇所のチェック、複数登下校の実施をします。さらに家庭や地域をあげての安全確保に協力を求めます。

災害に強い環境総合整備を

丹波市総合計画の中で
作成

小寺昌樹議員



問 緊急性を必要とする危険住宅地、市道、河川土砂崩れ、風倒木、農業施設の災害復旧の今年度入札状況と、17年度から18年度以降にわたる、約30%分の今後の計画はどうか。

答 2月中旬ごろから災害復旧事業の工事発注を行います。

問 農地にあつては水稻の作付けに間に合うように対応しますが、災害規模によつては18年度にまたがるが、ご理解いただきたい。

問 林道災害について、山林所有者に災害復旧事業については十分な説明ができていたか。この復旧事業は国庫補助、県費で対応できるのか。

答 旧町時代であり十分な説明でなかつたかと思

抜本的な水害対策を

国・県との協議を進める

奥村正行議員

河川断面を阻害している所は、土砂の掘削を県に要望しています。右岸堤防は一部パラペットによる力サ上げがされています。さらに調査をし県と協議します。高谷川の溢水が土砂堆積の影響かどうかはわかりません。加古川左岸堤防の漏水は、長年の治水事業の改築の繰り返しで築堤履歴が複雑な所であり、県に要望もし、水防活動時には要注意区間として十分な対応をしたいと考えています。

問 稲継交差点付近には、消防署があり、冠水により緊急車両の出勤に支障がある。また、この地域は市内でも一番の商業店舗や住宅建設が進んでいる所である。今回の水害でこの地域への進出気運にブレーキがかかれば、

問 稲継交差点付近には、消防署があり、冠水により緊急車両の出勤に支障がある。また、この地域は市内でも一番の商業店舗や住宅建設が進んでいる所である。今回の水害でこの地域への進出気運にブレーキがかかれば、



△改修が急がれる高谷川の下流域



△早期復旧を！（稲土）

田坂幸恵議員



前川豊市議員

▷ 水害による大量のゴミが
集積された水工工業団地

A black and white photograph showing a large pile of debris and rubble in an industrial area, with mountains in the background. The debris appears to be a mix of metal, wood, and other materials, piled high. In the background, there are mountains and some industrial structures. The foreground shows a body of water and some vegetation.

大木 滄夫議員



△4月からスタート（障害者・児生活支援センター）



△土砂が堆積した加古川

広瀬憲一議員



市民の投稿

丹波市議会を傍聴して

丹波地区商工会女性部連絡協議会
会長 行 幸子

私たち、丹波地区商工会女性部連絡協議会では、長引く不況をまともに受ける中小企業は行政の方針がどのように敷かれているかは極めて重要と感じていました。「女性も政治への関心は持たねば駄目！」と市議会も開かれるので、一度傍聴をしようと提案したところ、当日大変厳しい寒さの中、13名の参加となりました。議員さんが入場されると、支援者や地元の顔見知りとの挨拶

を交わす和やかなうちに定刻開始されました。市長が質問事項に答弁された救急医療体制、コミュニティバスを含む福祉の充実が一日も早い実現を待たれるところです。「身近な問題として受け止めることができ、その後も新聞に目を通すのが楽しみになった！」など会員の感想を聞くにつれ、政治には関心の薄かった女性に目を向けていただけたと自画自賛でした。

待望の学校給食に期待!

丹波市青垣町中佐治361-2
武藤 佐智子

いよいよ4月から、待望の学校給食が実施されます。長い間保護者が切望してきました給食が始まることをとてもうれしく思い、楽しみにしています。

お弁当には入れられなかったようないろいろな献立や温かいものを温かいまま食べさせてあげられるということが一番の喜びです。

今まで青垣町の子供たちが経験していない、団

体生活のなかで受けられる『食育』が子供たち

にとって、そして私たち保護者にとっても有意義なものになることを期待しています。

安心・安全はもちろんのこと、子供たちの心に残る「うれしい! 楽しい! おいしい!」給食であり続けることを願っています。



編集後記

桜のつばみもふくらみ、春爛漫の候となりました。

丹波市議会だより『たんばりんぐ』は、旧6町が和やかに環に連なり、タンバリンのように、にぎやかに議論し、丹波市を創造していく市民の様子をあらわしています。

丹波市の課題は山積していますが、選挙によって市民に負託された重みをしっかりと受けとめた本議会が、行政をただしながらも両輪の輪となり、新市を創りあげていく経過を、広報していきます。

定例会(3・6・9・

12月)後の発行でニュース性は少し遅れますが、「なぜ、そのように決まったのか、どのような議論がなされたのか」など審議の過程をお伝えします。

編集委員一同は、行政や議会を市民に公開する紙面づくりをしていくとはりきっています。

どうぞ『たんばりんぐ』をご愛読ください。



△広報編集発行特別委員会の編集作業